

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	パラドックス・レッド	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：パラドックス・レッド**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

4-1/2

研磨剤

**比較対照ボール：パラドックス・ブイ**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

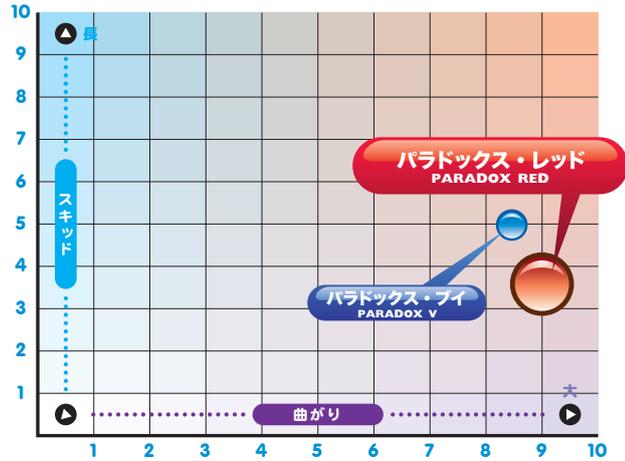
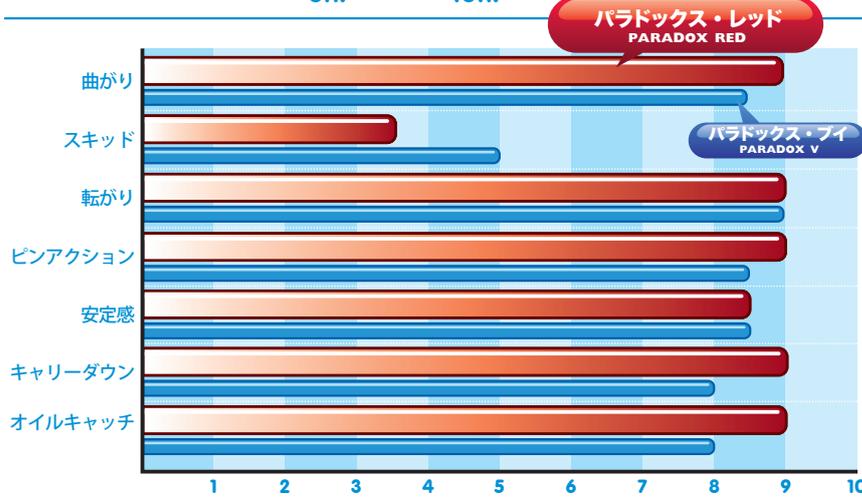
PAPからピンとの距離  インチ

4-1/2

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

キャッチとバックエンドの双方の強さを求め、PARADOX最強と言われたPARADOX BLACK。そこからさらに先の動きを強化させたPARADOX Vが発売され、TRACK社の持つカバーの強さとI-Core 2.0のモーションポテンシャルの高さで「動きのあるボール」を実感できました。今回約1年ぶりに発売されるこのPARADOX REDは今までにないBig Continuous Hook(持続性がある大きな曲がり)を開発コンセプトに新たにPrime ET(Extra Traction)というカバーを開発してきました。

私が歴代PARADOXシリーズに着目する理由の一つにI-Core 2.0の潜在能力があります。フレアを大きく出しながら最後まで軸移動させられるだけのモーションポテンシャルを持つコアは、実はそう多くはありません。同じカバーでもコアにI-Coreを搭載しなければPARADOXにならないと言えるように、I-Coreはカバーストック次第でさまざまな性能を出せるコアです。

カバーストックにも命名されている通り、Prime ET(Extra Traction)というMidから大きくまた強く、摩擦と軸移動を起こし、Big Continuous Hookという、持続的で大きく曲がり続けるさまは、安定感を感じさせるためのブレーキングとコアが持つ高いフッキングレートによって、完璧な曲がり幅を実現させてくれます。ただ大きく曲がるだけでなく、しっかりと軸移動が行われるのはボウラーにとっては非常に重宝で、オイリーなコンディションでの入射角や幅を取ったラインでのほどけ具合もPARADOX REDには少なくなっています。「大きい曲がり欲しいけど、しっかりと曲がりきって欲しい」。その願いはボウラー誰もが抱く願望です。手前から曲がりが出ていても、しっかりとピンヒットまで動き続ける。このパフォーマンスがあってこそPARADOX REDを発売する意義があります。単にシリーズだから発売されていない、PARADOXの進化をこのREDで見ることが出来るでしょう。

### 特記事項

**Prime ETという新しいカバーストックを纏い、Big Continuous Hookという持続性のある大きな曲がりを実現しました。ピンヒットまで動き続ける強いリアクションに目覚めるときがきました。**